

人も楽しく、われも楽しく

人に生き詰まりはない。行き詰る所まで行ったら、そこに打開の道があります。それにすぐ『困った』と言う。その心の運び方に行き詰まりが来るのです。家内が、『困りましたわ、お客様がお帰りになるんですって。せっかくのお料理がもったいない』といいますから、
「何がもったいない。徳のないお客様は食べないで、徳のある僕が頂戴する。ちょっとも困る事はないじゃないか』
と言って、私たちはよく笑います。

雨降りに出向いて、晴れて帰宅しますと、傘は電車の中へ忘れてきます。そんな時、誰か傘のない人が持って帰って喜んでいるから結構や、ご恩返ししたと思えば、有難いことですし、また、それだけの天の与えをふしぎに頂くものです。考えれば損も得もない世の中です。損したことが損にならず、得したことが得にならず、損したと思えば得になり、得したと思えば得になるのです。

むずかしいことをやさしく考えて 人も楽しくわれも楽しく
下手な歌ですが、こんな気持ちで、私は一切のむずかしさを捨てて、どんな複雑な事情も、やさしく考えて解決します。
「先生、金がないんです」
「借りなさい。貸してくれなければ売りなさい」
「それが売れないんです」
「じゃ仕方ない。金を使わないこと」
「金がなければ食べられません」
「食べられなければ、食べないんですね」
「食べられなければ死んでしまいます」
「そりゃ、死んだら結構や」
これは冗談でなく、解決であり、確信なのです。
単独布教から今日の日までこうして通って、断じて間違いありませんでした。
全くむずかしいことは何もない。各自の心のむずかしさが、むずかしくするのです。

出典：『話の台』天理教道友社 Web ストアより購入可